

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500195		
法人名	株式会社 ジョウジマ		
事業所名	グループホーム伊万里 (ユニットA/あかり棟)(ユニットB/あかり棟)		
所在地	佐賀県伊万里市二里町八谷がらみ781-1		
自己評価作成日	平成21年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成21年10月9日	外部評価確定日	平成21年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者やご家族の要望に対応できる柔軟性・終末期のケアの実績</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>居宅内はあえて段差を残し下肢筋力低下予防の工夫もされている。研修発表会や全国大会にも積極的に参加し事例発表するなど介護に対する学習意欲も感じられる。地域の消防団の協力もあり施設の中の様子も知ってもらい災害時の対応にも備えている。</p>

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(あかり棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(かえて棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりが地域の中で、土と水と空気と人とふれあい その人らしく生きていただく」という理念を作り上げている。また、毎朝の申し送りの前に、全員で理念を読み上げ、理念の下で業務がおこなえるように心がけている。	「一人ひとりが地域の中で、土と水と空気と人とふれあい その人らしく生きていただく」という理念を作り上げている。また、毎朝の申し送りの前に、全員で理念を読み上げ、理念の下で業務がおこなえるように心がけている。	理念は開設当初から変えることなく、初心を大事にしている。理念は玄関やロビー、スタッフルームに掲示している。朝のミーティングの時には全員で読み上げるなどして共有に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事に参加をしたり、グループホームの行事(納涼祭など)に地域の方をお誘いするなど、交流を図っている。また、行事以外でも日常的なお付き合いを心がけている。	町内の行事に参加をしたり、グループホームの行事(納涼祭など)に地域の方をお誘いするなど、交流を図っている。また、行事以外でも日常的なお付き合いを心がけている。	玄関の大きな壺の生け花をボランティアに生けてもらったり、納涼祭には近所の方々にも参加してもらうなどして地域とのつながりに努めている。日常的な買い物や散歩の折にも挨拶を交わすなどして積極的な関わりをもっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	災害時の避難場所として、地域の高齢者の方をグループホームで受け入れる体制ができています。	災害時の避難場所として、地域の高齢者の方をグループホームで受け入れる体制ができています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行い、利用者の状況や行事の経過、事例の報告などを通し、ご家族や運営委員の方々と意見交換を行なっている。その結果を現場などサービス向上に生かしている。	定期的に会議を行い、利用者の状況や行事の経過、事例の報告などを通し、ご家族や運営委員の方々と意見交換を行なっている。その結果を現場などサービス向上に生かしている。	行政担当者、地区民生委員、地域消防団、家族、本人、施設役員をメンバーとして定期的に運営推進会議を開催している。会議で運営面について協力の申し出やアドバイスなどがあり、会議の結果はスタッフに報告し現場につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市で主催されるコミュニティーケア会議に参加し、情報交換したり、事業所での事例を報告し、意見を頂くなどの協力関係ができています。	市で主催されるコミュニティーケア会議に参加し、情報交換したり、事業所での事例を報告し、意見を頂くなどの協力関係ができています。	市主催の研修会などの講師を務めるなど協力関係を築いている。市主催の定例会議には必ず参加し情報を交換している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止のマニュアルを作成しており、事業所全体として施錠や直接的な拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。しかし、利用者の状態により危険が伴う場合にやむを得ずおこなう場合は、ご家族に同意を得ている。	身体拘束禁止のマニュアルを作成しており、事業所全体として施錠や直接的な拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。しかし、利用者の状態により危険が伴う場合にやむを得ずおこなう場合は、ご家族に同意を得ている。	施錠に頼る事なく、スタッフの見守りによる支援がなされている。どうしても外に出られる人にはスタッフが一緒に外出し気分転換を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(あかり棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(かえで棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待禁止のマニュアルを作成しており、事業所内での研修もおこなっている。また、事業所内ではもちろん、事業所外でも虐待が行なわれていないか注意を払うよう心がけている。	高齢者虐待禁止のマニュアルを作成しており、事業所内での研修もおこなっている。また、事業所内ではもちろん、事業所外でも虐待が行なわれていないか注意を払うよう心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に、実際に成年後見制度を利用されている方もおられ、事業所で勉強会もおこない、スタッフの理解を深める機会を持っている。また、制度の必要性のある方には、働きかけをおこなっている。	利用者の中に、実際に成年後見制度を利用されている方もおられ、事業所で勉強会もおこない、スタッフの理解を深める機会を持っている。また、制度の必要性のある方には、働きかけをおこなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時などは、利用者や家族と話し合いの機会を持ち、説明に加え、疑問点があればそれに対して回答し、納得の上で契約等をおこなっている。	契約時、解約時などは、利用者や家族と話し合いの機会を持ち、説明に加え、疑問点があればそれに対して回答し、納得の上で契約等をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ロビーに意見箱を設置しており、随時苦情や要望等、意見を受け付けている。また、ご家族の面会時に、意見を伺い、運営等に反映している。	玄関ロビーに意見箱を設置しており、随時苦情や要望等、意見を受け付けている。また、ご家族の面会時に、意見を伺い、運営等に反映している。	面会時だけではなく電話などでの連絡も密に行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で、話し合う機会に出た職員の意見や毎月おこなわれる職員会議での意見・提案を聞く機会を設けている。代表者・管理者で、意見を反映できるよう再度話し合いをおこなっている。	日々の業務の中で、話し合う機会に出た職員の意見や毎月おこなわれる職員会議での意見・提案を聞く機会を設けている。代表者・管理者で、意見を反映できるよう再度話し合いをおこなっている。	毎月職員会議を開催し、職員の意見表出の機会が作られ、出された意見等は改善に繋げている。行事等もスタッフが立案し、協議しながら実施されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	積極的な研修参加や資格取得など勤務態度・実績を評価し、それに伴い、昇給などの環境整備をおこない、職員のやる気や向上心に対するの評価をおこなっている。	積極的な研修参加や資格取得など勤務態度・実績を評価し、それに伴い、昇給などの環境整備をおこない、職員のやる気や向上心に対するの評価をおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修はもちろん、外部研修にも積極的に参加できるよう、回覧を提示し、参加を促したり、職員の技術の向上に働きかけている。	事業所内研修はもちろん、外部研修にも積極的に参加できるよう、回覧を提示し、参加を促したり、職員の技術の向上に働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(あかり棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(かえで棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との会議に出席したり、他事業所見学をするなど、同業者間で交流を深め、情報交換・意見交換をすることで、質の向上に努めている。	他事業所との会議に出席したり、他事業所見学をするなど、同業者間で交流を深め、情報交換・意見交換をすることで、質の向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人の言葉・状態をよく観察し、要望や困っていることを解決できるように対応している。また、利用者との信頼関係を早く築けるよう、本人の訴えに傾聴するよう努めている。	利用者本人の言葉・状態をよく観察し、要望や困っていることを解決できるように対応している。また、利用者との信頼関係を早く築けるよう、本人の訴えに傾聴するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に到るまでの経緯や今後の要望・困っていることなどを情報収集し、解決できることには早急に対応するなど、利用にあたっての不安が無いよう、努力している。	入居に到るまでの経緯や今後の要望・困っていることなどを情報収集し、解決できることには早急に対応するなど、利用にあたっての不安が無いよう、努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人や家族の要望が当事業所で出来るサービスと合致するかを検討し、他のサービスも視野に入れながら、その都度、支援の見極めをおこなっている。	利用者本人や家族の要望が当事業所で出来るサービスと合致するかを検討し、他のサービスも視野に入れながら、その都度、支援の見極めをおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の力が発揮できる環境づくりに努め、日常生活を共にすることで、職員と利用者がお互いに助け合い、同等の関係であるように努めている。	入居者の力が発揮できる環境づくりに努め、日常生活を共にすることで、職員と利用者がお互いに助け合い、同等の関係であるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会などいつでも受け付け、利用者の状態報告をしたり、情報を共有することで、ご家族と共に利用者を支える関係作りに努めている。また、遠方のご家族には、電話連絡で現状報告など近況をお知らせしている。	ご家族の面会などいつでも受け付け、利用者の状態報告をしたり、情報を共有することで、ご家族と共に利用者を支える関係作りに努めている。また、遠方のご家族には、電話連絡で現状報告など近況をお知らせしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(あかり棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(かえで棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身体的なレベルの低下などにより、以前行くことが出来た場所にいけなくなるケースもあるが、できるだけ以前の馴染みの関係が途切れないよう援助している。(帰省時の送迎介助・面会の設定など)	身体的なレベルの低下などにより、以前行くことが出来た場所にいけなくなるケースもあるが、できるだけ以前の馴染みの関係が途切れないよう、必要があれば、面会を頼んだり、移動手段の工夫をするなど、支援をしている。	心身機能の低下とともに馴染みの人や場所との関係は希薄になる事もあるが、関係者に施設に来てもらうなどして関係維持の支援に努めている。サッカーや野球の観戦に定期的に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が、利用者同士の関わりへの掛け橋になり、プライベートな時間も持ちつつ、グループホームでの共同生活を円滑に過ごせるように援助している。しかし、認知症のレベルの差もあり、理解し合えない時もあり、対応策に苦心することもある。	職員が、利用者同士の関わりへの掛け橋になり、プライベートな時間も持ちつつ、グループホームでの共同生活を円滑に過ごせるように援助している。しかし、認知症のレベルの差もあり、理解し合えない時もあり、対応策に苦心することもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などで契約が更新できない場合なども、その後の生活の場を外部に相談したり、本人やご家族が安心できる体制をとっている。また、契約終了後も随時、相談などを受け付けている。	長期入院などで契約が更新できない場合なども、その後の生活の場を外部に相談したり、本人やご家族が安心できる体制をとっている。また、契約終了後も随時、相談などを受け付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の直接的な意見や職員が観察する中での本人の動き・家族やケアマネからの情報収集に努め、利用者の思いの把握に努めている。また、自分の意見を訴えることが困難な方に対しても、情報と観察の中で、利用者の目線で考えるように心がけている。	本人の直接的な意見や職員が観察する中での本人の動き・家族やケアマネからの情報収集に努め、利用者の思いの把握に努めている。また、自分の意見を訴えることが困難な方に対しても、情報と観察の中で、利用者の目線で考えるように心がけている。	入居者の気持ちが汲み取れるようにシグナルや雰囲気を感じ取って対応している。スタッフ間では利用者の情報交換を密に行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に際し、生活歴やこれまでの様々な経過などの情報をとっている。また、入居後も、本人やご家族に尋ね、これまでの生活環境の把握に努め、ケアに生かしている。	入居に際し、生活歴やこれまでの様々な経過などの情報をとっている。また、入居後も、本人やご家族に尋ね、これまでの生活環境の把握に努め、ケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの暮らしの状況を把握しながら、現在の暮らしぶり・心身状態・残存機能など一人ひとりの暮らしの把握に努めている。	これまでの暮らしの状況を把握しながら、現在の暮らしぶり・心身状態・残存機能など一人ひとりの暮らしの把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(あかり棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(かえで棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族から得た情報や現状を考えながら、計画作成者・担当者を中心に、本人が望ましい介護計画の作成に努めている。しかし、ケアプランに対するご家族の要望が直接聞けないことが多く、今後は検討の余地がある。	これまでの生活ぶりや現状を考えながら、本人が望ましい介護計画の作成に努めている。しかし、ケアプランに対するご家族の意見が直接聞けないことが多く、今後は検討の余地がある。	基本的には本人、家族を交えての作成を基本としているが、現状ではケアマネジャーとスタッフが本人の意向を汲み取りながら作成している。家族への状況報告も密にしているが家族からの十分な意見を聞く事が出来ない事もある。	より充実した介護計画を作成するためにも本人や家族の意見や意向を取り入れられるようなお一層の意見交換やモニタリングの工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々のケース記録やケアプランの実施状況をチェックする用紙を作成しており、見直しの際に活用している。	利用者個々のケース記録やケアプランの実施状況をチェックする用紙を作成しており、見直しの際に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームにおける認知障害サービスの利用も可能であり、その時の要望に対して、人員を配置したり、勤務時間の変更など柔軟に対応している。	グループホームにおける認知障害サービスの利用も可能であり、その時の要望に対して、人員を配置したり、勤務時間の変更など柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや消防団との交流もあり、必要に応じて協力し合える関係作りが出来ている。	地域のボランティアや消防団との交流もあり、必要に応じて協力し合える関係作りが出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前の主治医を希望される場合は、希望どうり継続していただき、通院介助をグループホームで援助している。特に主治医を持っていない場合は、話し合いのもと、提携医院を紹介したり、主治医の設定をしている。	入居以前の主治医を希望される場合は、希望どうり継続していただき、通院介助をグループホームで援助している。特に主治医を持っていない場合は、話し合いのもと、提携医院を紹介したり、主治医の設定をしている。	基本的には入居前の主治医との関係を継続している。病院受診は状態をよく知っている施設職員が付き添って医療機関との情報交換を密に行っている。変化があったときは家族へ報告し相談している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時、状態観察をおこない、身体的な異変や気になることがあれば、医療連携責任者や受診時に看護師に尋ねるなど、連携を図り、利用者が適切な医療を受ける援助を行っている。	常時、状態観察をおこない、身体的な異変や気になることがあれば、医療連携責任者や受診時に看護師に尋ねるなど、連携を図り、利用者が適切な医療を受ける援助を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が、入院先でも同様の介護が受けられるように、受診時などに情報交換をおこない、医療関係者との連携を保ち、よりよい関係作りを努めている。	利用者が、入院先でも同様の介護が受けられるように、受診時などに情報交換をおこない、医療関係者との連携を保ち、よりよい関係作りを努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(あかり棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(かえで棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としてのターミナルの方針・指針・同意書等を作成しており、主治医や本人・ご家族と話し合いをおこないながら終末期の動きを確認し、チームケアができるよう取り組んでいる。	事業所としてのターミナルの方針・指針・同意書等を作成しており、主治医や本人・ご家族と話し合いをおこないながら終末期の動きを確認し、チームケアができるよう取り組んでいる。	これまでに7人の方のターミナルケアを経験している。マニュアルに沿って本人、家族、主治医、職員全員が情報を共有しながら安心して最期を迎えられるよう取り組んでいる。みおくりの時は深夜でも全職員がそろってみおくりをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修などで急変時の対応や応急処置の勉強会を行っている。	職員研修などで急変時の対応や応急処置の勉強会を行っている。	/	/
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練は、日中を想定した場合と夜間を想定した場合の年2回おこなっている。また、その他の災害時の対応も考慮し、地域の消防団や公民館館長とも連携し、協力体制ができています。	防火訓練は、日中を想定した場合と夜間を想定した場合の年2回おこなっている。また、その他の災害時の対応も考慮し、地域の消防団や公民館館長とも連携し、協力体制ができています。	自動通報装置を設置している。スプリンクラーの設置も計画している。防火訓練実施時に問題点が判れば解決のための検討会や再訓練を実施している。また地区の消防団は施設内の居室の配置を知ってもらうなどして協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(あかり棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(かえで棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への接遇(言葉遣い・態度など)に注意し、勉強会もおこなっている。また、一人ひとり、それぞれの個性に合った対応をし、自尊心を傷つけない対応を心がけている。	利用者への接遇(言葉遣い・態度など)に注意し、勉強会もおこなっている。また、一人ひとり、それぞれの個性に合った対応をし、自尊心を傷つけない対応を心がけている。	職員はわかりやすい言葉を選び短い文章で慣れ合いにならないような言葉かけに気をつけている。外部講師による接遇の勉強もしている。記録物や個人情報に関する保管方法の徹底にも努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1日の生活の流れはあるが、それに囚われず、また、職員が主導権を握るのではなく、利用者自身が自己決定できるように、その都度、確認をするよう心がけている。	1日の生活の流れはあるが、それに囚われず、また、職員が主導権を握るのではなく、利用者自身が自己決定できるように、その都度、確認をするよう心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者自身のペースで過ごしてもらうよう心がけ、自己決定が出来るような解りやすい言葉かけ(何をしたいか。いつしたいか。)や対応を心がけている。	利用者自身のペースで過ごしてもらうよう心がけ、自己決定が出来るような解りやすい言葉かけ(何をしたいか。いつしたいか。)や対応を心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や服装など本人に尋ね、好みを取り入れている。自分で上手くできない方には、その人にあった服装などを考え対応している。	髪型や服装など本人に尋ね、好みを取り入れている。自分で上手くできない方には、その人にあった服装などを考え対応している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力を見定め、食事の準備(野菜の皮むき・配膳など)や後片付けなどを職員と一緒にこなしている。また、例えば、利用者の誕生日の時など、その方の好みのものを中心に献立を立てるなどの、食事を楽しむ工夫をしている。	利用者の能力を見定め、食事の準備(野菜の皮むき・配膳など)や後片付けなどを職員と一緒にこなしている。また、例えば、利用者の誕生日の時など、その方の好みのものを中心に献立を立てるなどの、食事を楽しむ工夫をしている。	皮むきなど一緒にしている献立は入居者と相談しながら作っている。入居者の誕生日にはその人の嗜好にあった物を献立に取り入れるなどしてより一層食事が楽しみなものになるよう努めている。週に1回は入居者と一緒におやつを買いに行っている。晩酌を楽しむ支援も行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせて、食事の形態や量、水分量の調節をおこなっている。また、食事量や水分量は記録に残し、変化や量を把握できるようにしている。	利用者の状態に合わせて、食事の形態や量、水分量の調節をおこなっている。また、食事量や水分量は記録に残し、変化や量を把握できるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(あかり棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(かえで棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員、口腔ケアを徹底している。うがいが出来なかったり、その人の状態により、ガーゼで拭くなどの援助をおこなっている。	毎食後、全員、口腔ケアを徹底している。うがいが出来なかったり、その人の状態により、ガーゼで拭くなどの援助をおこなっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ケース記録に排泄の有無の記録を残し、排泄パターンの把握に努めている。また、出来るだけ自分の力で排泄行為や便器までの移動が可能ないようにポータブルトイレの設置場所や麻痺がある方の介助方法などの工夫をしている。	ケース記録に排泄の有無の記録を残し、排泄パターンの把握に努めている。また、自分では尿意等を訴えることが出来ない方でも、定期的にトイレ誘導したり、失禁を減らす援助をおこなっている。	入居と同時にオムツはずしの支援に取り組むこととしており、定時の排泄誘導ではなく一人ひとりの状態に合わせ、排泄の自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェック表も作成しており、排泄パターンの把握をしている。予防対策としては、水分補給や服薬管理、体操などの運動の促しなどをおこなっている。	排便のチェック表も作成しており、排泄パターンの把握をしている。予防対策としては、水分補給や服薬管理、体操などの運動の促しなどをおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に毎日、入浴を実施しており、希望の時間帯に入浴してもらえるように配慮している。また、自分で要求できない方には、体調やタイミングを見て、職員が促し、介助をおこなう。	基本的に毎日、入浴を実施しており、希望の時間帯に入浴してもらえるように配慮している。また、自分で要求できない方には、体調やタイミングを見て、職員が促し、介助をおこなう。	一人ひとりの意向を第一に、くつろいだ気持ちで好みの時間に入浴できるような配慮をしながら毎日入浴を基本に支援されている。入浴ができない時は清拭が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も自室でゆっくり休んで頂くなど、その時の状況に応じている。また、要求が出来ない方には、体調や状態をみながら、休んで頂く援助をしている。	日中も自室でゆっくり休んで頂くなど、その時の状況に応じている。また、要求が出来ない方には、体調や状態をみながら、休んで頂く援助をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や用量などは、薬局からの説明書きを確認し、把握に努めている。また、医師や薬剤師から受けた注意などを受診ノートに記録し、職員全員が確認できるようにしている。	薬の内容や用量などは、薬局からの説明書きを確認し、把握に努めている。また、医師や薬剤師から受けた注意などを受診ノートに記録し、職員全員が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前の嗜好や生活歴は把握しているが、現在の状況に応じた楽しみごと・気分転換の援助が必要であり、以前の趣味が当てはまるとは限らなくなってきた。現在できること・楽しいと感じていることを把握し、援助する努力をしている。	以前の嗜好や生活歴は把握しているが、現在の状況に応じた楽しみごと・気分転換の援助が必要であり、以前の趣味が当てはまるとは限らなくなってきた。現在できること・楽しいと感じていることを把握し、援助する努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(あかり棟) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(かえで棟) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など要望に応じて対応している。また、伊万里市外など普段は行けない場所へも協力しあいながらお連れしているが、身体レベルの差などにより、限られた利用者のみになっている。	買い物や散歩など要望に応じて対応している。また、伊万里市外など普段は行けない場所へも協力しあいながらお連れしているが、身体レベルの差などにより、限られた利用者のみになっている。	一人ひとりの状態に合わせた外出の支援が行われている。スポーツ観戦、温泉、地区の行事への参加、施設の庭先での日光浴など戸外に出ることを積極的に支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望や金銭の管理能力を把握し、本人に所持してもらったり、外出時に使ってもらうような援助をしているが、現在は、ほとんどの利用者が自分では金銭管理できず、職員が代行している。	利用者の希望や金銭の管理能力を把握し、本人に所持してもらったり、外出時に使ってもらうような援助をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はリビングに設置してあり、いつでも使えるようにしてある。また、利用者の能力により、希望があれば電話をかける際の援助や手紙の準備などをおこなっている。	電話はリビングに設置してあり、いつでも使えるようにしてある。また、利用者の能力により、希望があれば電話をかける際の援助や手紙の準備などをおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関など共有スペースには季節の花などを飾っているが、刺激になる強い色や幻覚を誘うような形の物は置かないようにしてある。また、不快な音・においなどがないように心がけている。	リビングや玄関など共有スペースには季節の花などを飾り、心地よい空間作りに努めている。また、不快な音・においなどがないように心がけている。	窓からの景色や生け花、換気、消臭、布団干しなど入居者に季節や居心地のよい空間づくりの工夫や配慮が、居室内の随所に感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや畳の間があり、自由に思い思いの場所で過ごせるように配置してある。また、少し離れた所(ロビー・ウッドデッキ)にも椅子やソファを置き、一人になれる空間を設けている。	リビングにはソファや畳の間があり、自由に思い思いの場所で過ごせるように配置してある。また、少し離れた所(ロビーや縁側)にも椅子やソファを置き、一人になれる空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していた家具や品物を配置し、居心地よく、また、出来るだけ混乱しないように配慮している。	以前使用していた家具や品物を配置し、居心地よく、また、出来るだけ混乱しないように配慮している。	鏡台、筆筒、寝台など使い慣れたものが用意され居心地よく生活できるような配慮が行われている。家具の配置も利用者が動きやすいよう考えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレなど場所がわかりやすいように明記し、また、通路の障害物や段差などがないように配慮している。	自室やトイレなど場所がわかりやすいように明記し、また、通路の障害物や段差などがないように配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果			
		ユニットA	ユニットB	↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の	
				2. 利用者の2/3くらいの	
				3. 利用者の1/3くらいの	
				4. ほとんど掴んでいない	
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)		○	1. 毎日ある	
		○		2. 数日に1回程度ある	
				3. たまにある	
				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が	
				2. 利用者の2/3くらいが	
				3. 利用者の1/3くらいが	
				4. ほとんどいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が	
				2. 利用者の2/3くらいが	
				3. 利用者の1/3くらいが	
				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)			1. ほぼ全ての利用者が	
		○	○	2. 利用者の2/3くらいが	
				3. 利用者の1/3くらいが	
				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が	
				2. 利用者の2/3くらいが	
				3. 利用者の1/3くらいが	
				4. ほとんどいない	

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない